



大山



鳥取砂丘

鳥取県の農林水産業の概要



令和8年7月
農林水産省
中国四国農政局
鳥取県拠点

目次

● 鳥取県の概要	2 ページ
● データで見る鳥取県の農林水産業①	3 ページ
● データで見る鳥取県の農林水産業②	4 ページ
● 鳥取県の全国上位の農林水産物	5 ページ
● 鳥取県の取組	6 ページ
● みどりの食料システム戦略①	7 ページ
● みどりの食料システム戦略②	8 ページ
● 水稻	9 ページ
● 野菜	10 ページ
● 果樹	11 ページ
● 地理的表示（G I :Geographical Indication）保護制度	12 ページ
● 畜産	13 ページ
● 林業	14 ページ
● 漁業	15 ページ
● 輸出	16 ページ
● 農泊	17 ページ
● つなぐ棚田遺産	18 ページ
● 鳥獣対策・ジビエ推進の取組	19 ページ
● ディスカバー農山漁村の宝・多面的機能発揮促進事業	20 ページ

鳥取県の概要



鳥取県は、東西126km、南北62kmと東西に細長く、中国山地が日本海側にせり出しているため、山地の多い地形が特徴です。

中国地方に位置していますが、人的往来や物資の流通など、経済的には京阪神地方との結び付きが強くなっています。県内総生産の産業構成比は、第1次産業が2.4%、第2次産業が21.3%、第3次産業が75.1%となっています。

農業は、三大河川（千代川、天神川、日野川）流域に広がる水田地帯での水稻をはじめ、県東部から中部にかけての中山間地帯の傾斜地や黒ぼく土の丘陵地帯における「日本なし」を中心とした果樹栽培、黒ぼく畑や砂丘地帯での野菜栽培、大山山麓地域での酪農、山間地域での肉用牛生産など、多様な農業生産が営まれています。

林業は、慶長杉に代表されるように、八頭郡で古くから杉の造林が行われており、智頭林業や若桜林業は全国的に知られています。現在では県内各地で良質の杉材が生産されています。

水産業は、日本海側最大級の漁業基地である境港を中心に、まあじ、さば類、いわし類、ぶり類、いか類、かれい類、ずわいがに、べにずわいがに、くろまぐろ、岩がきなどが水揚げされています。また、美保湾におけるぎんざけ養殖をはじめ、漁港等を活用したわかめ養殖や、ひらめ、きじはた、にじます、まさば等の陸上養殖、さらには内水面におけるさけ・ます類の養殖など、多様な水産業が展開されています。

データで見る鳥取県の農林水産業①

○ 農 業

項 目		鳥取県	全 国	全国順位
耕地面積（単位：ha）	R 7	31,800	4,239,000	37
田	R 7	21,600	2,300,000	35
畑	R 7	10,200	1,939,000	32
普通畑	R 6	8,320	1,118,000	26
樹園地	R 6	1,230	248,600	42
牧草地	R 6	799	585,900	19
農業経営体数（単位：経営体）	R 7	10,967	836,054	37
法人経営	R 7	315	33,819	41
総農家数（単位：戸）	R 7	18,287	1,394,135	36
販売農家	R 7	10,457	792,808	36
基幹的農業従事者	R 7	12,240	1,036,228	36

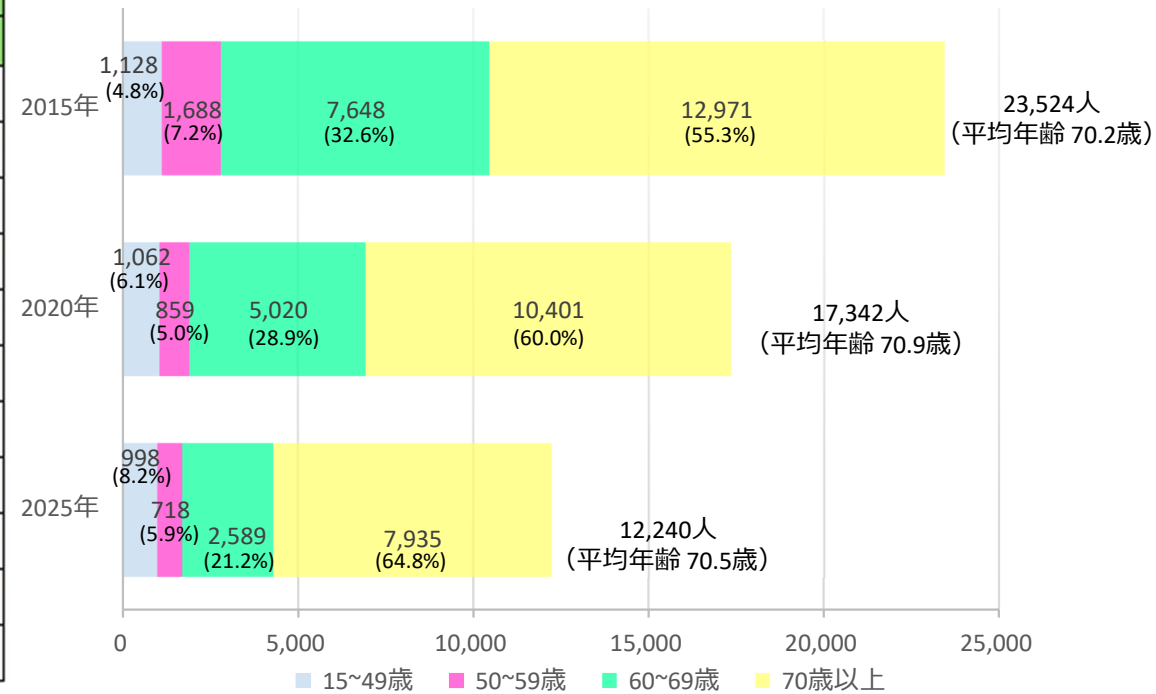
出典：農林水産省「面積調査」、「農林業センサス」

○ 林 業

項 目		鳥取県	全 国	全国順位
林野面積（単位：ha）	R 7	258,344	24,744,214	33
国有林	R 7	30,224	7,117,059	27
民有林	R 7	228,120	17,627,155	32
林野率（%）	R 7	74	66.0	13
林業経営体（単位：経営体）	R 7	358	23,300	26
法人経営	R 7	53	3,813	28

出典：農林水産省「農林業センサス」

鳥取県 基幹的農業従事者数と平均年齢の推移



出典：農林水産省「農林業センサス」

○ 水 産 業

項 目		鳥取県	全 国	全国順位
海面業業経営体数（単位：経営体）	R 5	520	65,662	32
海面業業就業者数（単位：人）	R 5	979	121,389	33
漁獲量（単位：t）	R 6	89,922	2,786,195	7
ずわいがに	R 6	564	2,387	1
べにずわいがに	R 6	2,225	12,345	2
まいわし	R 6	51,071	666,403	3

出典：農林水産省「漁業センサス」、「海面漁業生産統計調査」

データで見る鳥取県の農林水産業②

○農業産出額

単位：億円

項目		鳥取県	全国	順位
産出額計	R 6	865	108,200	36
耕種小計	R 6	537	70,703	42
米	R 6	206	25,640	36
野菜	R 6	219	25,510	34
果実	R 6	71	10,112	32
花き	R 6	30	3,423	33
畜産小計	R 6	328	36,932	29
肉用牛	R 6	71	7,860	29
乳用牛	R 6	87	9,767	19
生乳	R 6	83	8,944	19
豚	R 6	49	7,629	29
鶏	R 6	119	10,655	25
鶏卵	R 6	8	5,852	44
ブロイラー	R 6	111	4,259	7

出典：農林水産省「生産農業所得統計」

○林業産出額

単位：億円

項目		鳥取県	全国	順位
産出額計	R 6	33	4,770	33
木材生産小計	R 6	20	2,369	29
針葉樹	R 6	19	2,235	
広葉樹	R 6	1	125	
栽培きのこ類生産小計	R 6	12	2,323	29
薪炭生産小計	R 6	1	37	10

出典：農林水産省「林業産出額」

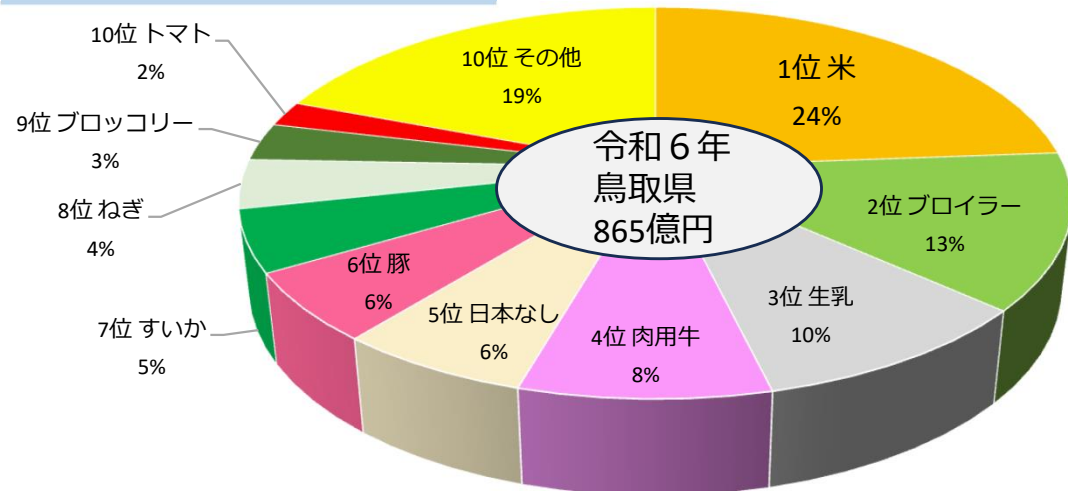
○漁業産出額

単位：億円

項目		鳥取県	全国	順位
海面漁業・養殖業計	R 6	218	14,785	19
海面漁業小計	R 6	197	8,894	13
まいわし類	R 6	35	941	10
ずわいがに	R 6	26	124	3
べにずわいがに	R 6	9	55	2
かつお類	R 6	24	699	10
海面養殖業小計	R 6	21	5,891	25

出典：農林水産省「漁業産出額」

○農業産出額の品目別構成比



出典：農林水産省「生産農業所得統計」

鳥取県の全国上位の農林水産物

らっきょう (全国 1 位)
15億円 (産出額・令和 6 年)



すいか (全国 4 位)
44億円 (産出額・令和 6 年)



日本なし (全国 3 位)
56億円 (産出額・令和 6 年)



ブロッコリー (全国 9 位)
27億円 (産出額・令和 6 年)



ブロイラー (全国 7 位)
104億円 (産出額・令和 6 年)



竹炭 (全国 2 位)
86.1 t (生産量・令和 5 年)



乾きくらげ (全国 4 位)
7.8 t (生産量・令和 5 年)



エリンギ (全国 5 位)
318.9 t (生産量・令和 5 年)



ずわいがに (全国 3 位)
26億円 (産出額・令和 6 年)



べにずわいがに (全国 2 位)
9億円 (産出額・令和 6 年)



はたはた (全国 1 位)
5億円 (産出額・令和 6 年)



まいわし (全国 6 位)
34億円 (産出額・令和 6 年)



鳥取県の取組

鳥取県農業生産 1 千億円達成プランの策定

鳥取県では農業の活力を高めていくために、各種施策を推進する「鳥取県農業生産 1 千億円達成プラン」を策定しています。

農林水産物のブランド化推進と園芸基盤強化

収益性の高い園芸品目として白ねぎ、ブロッコリー等の生産拡大をはじめ、県が独自に開発した大玉で高糖度かつ酸味の少ない日本なし「新甘泉^{しんかんせん}」、鳥取県生まれでなめらかな食感と上品な甘みが特徴のかき「輝太郎^{きたろう}」、県育成いちご品種「とっておき」、県の愛称である「星取県」を象徴するブランド米「星空舞^{ほしぞらまい}」のブランド化等を推進しています。

また、鳥取県は全国有数のすいか生産地であり、中でも「大栄西瓜^{だいえいすいか}」は県を代表するブランドすいかとして高い評価を得ています。

地理的表示(GI)保護制度には、「鳥取砂丘らっきょう・ふくべ砂丘らっきょう」「大山ブロッコリー」「こおげ^{はなごしよがき}花御所柿」「大栄西瓜」が登録されており、令和 6 年には「伯州美人^{はくしゅうびじん}」（白ねぎ）が新たに登録されています。

さらに、鳥取型低コストハウス※の導入やハウス施設の高度利用等による生産コストの低減、日本なしのリレー出荷による労力の分散と出荷期間の長期化、ジョイント栽培の導入等を通じて園芸産地の基盤強化を推進しています。

※高強度鋼管を使用し、パイプピッチを従来の1.4倍（70cm）に拡大することで、建設コストを大幅に削減したハウスです。耐雪型と通常型があります。

農産物の適正な価格形成の推進

鳥取県では、毎年 9 月 1 日から11月30日を「地産地消月間」とし、県産食材の利用拡大及び地産地消の推進に取り組んでいます。また、この取組に合わせて「県民みんなでフェアいいチョイス！」をキャッチフレーズに、平井知事の似顔絵キャラクター「フェアいい信じ」を活用した情報発信も行っています。

令和 7 年度からは、農林水産省の「フェアプライスプロジェクト」と連携して、県産食材への愛着の醸成と農産物の適正な価格形成の取組を推進しています。



鳥取県特設サイト
<https://motto-tottori.jp/>



大栄西瓜



新甘泉



「フェアいい信じ」による広告展開

みどりの食料システム戦略①

- 農林水産省は、持続可能な食料システムの構築に向け、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションにより実現するため、2050年までに目指す姿（目標）として、14のKPI（重要業績評価指標）を設定し、戦略的な取組を推進しています。
- 鳥取県では、環境に配慮した持続可能な農業生産を推進するため、令和5年3月22日に県と県内19市町村が共同で「鳥取県みどりの食料システム戦略基本計画」を策定・公表しました。

農林水産省のみどりの食料システム戦略

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。

2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。

補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスプライアンス要件を充実。

※ 革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



鳥取県のみどりの食料システム戦略基本計画

鳥取県みどりの食料システム戦略基本計画の概要

令和5年3月公表
(令和7年10月変更)

- 環境に配慮した持続可能な農業生産を図るため、「生産現場での環境づくり」、「販路の確保」、「消費者等の理解の促進」を推進目標として掲げ、化学肥料・化学農薬の使用低減や農業用プラスチック排出量削減、有機・特別栽培農産物の販路拡大の推進等を総合的に実施する。

【作成主体】 鳥取県及び県内全19市町村

【計画の主な目標】

- ・ 化学肥料使用量の2割低減（R9）
- ・ 化学農薬使用量の低減
- ・ 有機・特栽培面積の拡大：2,000ha（R16）
- ・ 農業用廃プラスチック排出量の削減

【取組のポイント】

- ・ 県やJA等で構成する「鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会」により、各種取組に必要な協力体制を構築
- ・ 家畜排せつ物等の地域資源を活用した肥料の利用や技術研修会の開催等により循環型農業の普及を促進
- ・ 水稲におけるプラスチックレス肥料の実用化や浅水代かきの普及啓発による湖沼等へのプラスチックの流出を削減
- ・ 商談会の開催や量販店での有機・特裁コーナーの設置等により消費者理解や販路開拓・拡大を促進

【特定区域の設定】

やすちよう
＜八頭町（全域）＞

有機栽培技術の研修や実証、直売所等での有機農産物の特設コーナーの設置、学校給食での活用を通じた有機農業の取組拡大



堆肥入り肥料の実用化



浅水代かきの研修会



有機農産物を利用した学校給食

みどりの食料システム戦略②

○ 鳥取県内における環境負荷低減の取組の「見える化」や、有機農業に関する取組について紹介します。

「見える化」に取り組んでいる生産者

みえるらべる

農林水産省は、消費者が環境に配慮した農産物を選択しやすくするため、生産者の環境負荷低減の取組を評価し、その結果を星の数で分かりやすく示す「見える化」を推進しています。

鳥取県 みえるらべる MAP



- ① Miraifarm (米)
- ② AGBIOTECH株式会社 (なす、たまねぎ)
- ③ 大原トマト生産部 (トマト)
- ④ 石田農園 (トマト、きゅうり)
- ⑤ 三徳レンジャー (米)
- ⑥ 犬飼農園 (日本なし)
- ⑦ 農事組合法人宮市 (米)



温室効果ガス削減の取組

- ・化学農薬、化学肥料の低減
- ・化石燃料の削減
- ・堆肥やバイオ炭の施用 等

削減貢献率 5 %以上: ★
 // 10%以上: ★★
 // 20%以上: ★★★

≫ 地域の標準的な栽培と比較した温室効果ガス排出量の削減貢献率を算定し、等級を確定

生物多様性保全の取組

- ※米に限る
- ・化学農薬、化学肥料の低減
- ・冬期湛水
- ・魚の保護 等

取組の得点1点 : ★
 // 2点 : ★★
 // 3点以上: ★★★

≫ 温室効果ガス削減に加え、生物多様性の保全につながる取組の実施数を得点化し、等級を確定

見つけて！農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」(農林水産省HP)：
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

鳥取県内の有機農業の取組

有機JASは、有機食品に関する農林水産大臣が定める国家規格です。有機食品とは、農薬や化学肥料などの化学物質に頼らず、自然の力を活かして生産された食品を指します。



全国と鳥取県の有機JASほ場面積 (ha)

(令和6年3月31日現在)

	合計	田	畑	その他
全国	21,815	3,598	18,092	126
鳥取県	46	20	25	1

有機JAS (農林水産省HP) :

<https://www.maff.go.jp/j/jas/index.html>

※小数点以下は四捨五入したため、合計が一致しない

「オーガニックビレッジ宣言」 (日野郡日南町・八頭郡八頭町)

日南町は、令和6年4月22日に、八頭町は令和7年10月19日に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

両町では、化学農薬を使用しない省力的な除草方法の検証や、大規模イベントでの有機農産物の販売などに取り組んでいます。

オーガニックビレッジとは？

有機農業に生産から消費まで一貫して地域ぐるみで取り組む市町村をいいます。

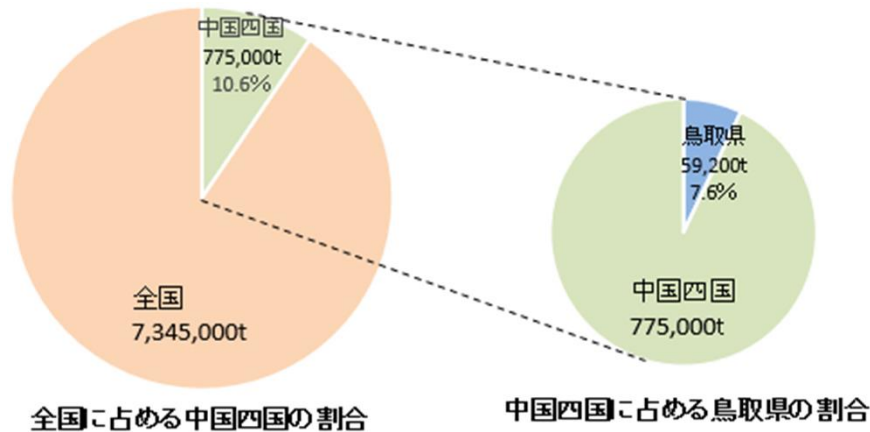


オーガニックライフスタイルEXPOへ出店

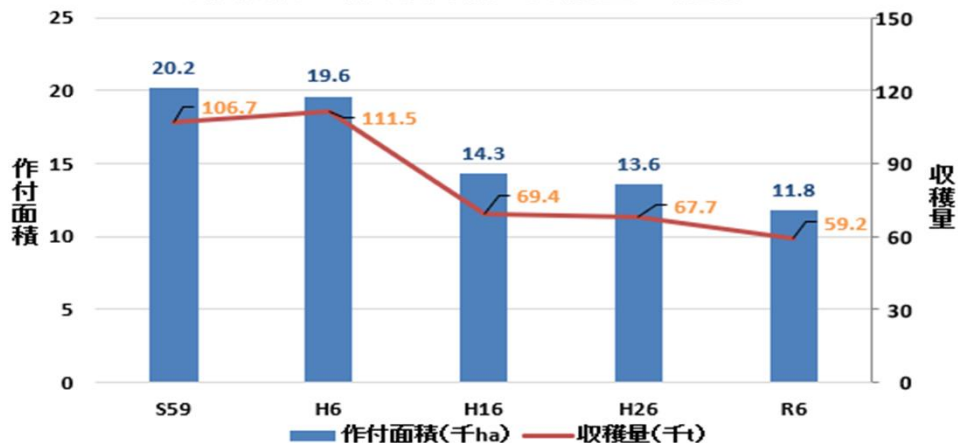
水稻

- 令和6年の鳥取県の米の産出額は206億円で全国36位、令和6年産の収穫量は59,200 tとなっています。
- 鳥取県の主食用米は、良食味の早生品種「コシヒカリ」と「ひとめぼれ」の作付面積が半数以上を占めています。近年は、高温条件下でも収量や品質が安定している、中生品種「きぬむすめ」の作付けが増加しています。
- 鳥取県オリジナル品種の「^{ほしぞらまい}星空舞」は、令和元年に本格的に生産が始まり、令和7年産の作付面積は約1,540haとなっています。「星空舞」は、炊飯後のツヤや光沢に優れた良食味米であり、令和7年産米の食味ランキングでは、「きぬむすめ」とともに最高評価の「特A」を獲得しました。

令和6年産
水稻（子実用）収穫量に占める鳥取県の割合



鳥取県の作付面積・収穫量の推移



出典：農林水産省「作物統計」

鳥取県が開発した「星空舞」



●特徴

- ・白米が綺麗で透き通っている。
- ・お米のおいしさの指標「食味度」が高い。
- ・炊いたお米のツヤが優れる。
- ・粒感がしっかりあり、はね返るような食感。
- ・冷めても食感が変わらず美味しい。

●栽培上の特性

- ・夏場の高温に強く、一等米に格付けされやすい。
- ・コシヒカリより背丈が短く、倒れにくい。
- ・いもち病にかかりにくい。

◆鳥取県のお米について（鳥取県HP）：
<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=178194>

野菜

- 令和6年の鳥取県の野菜の産出額は219億円で全国34位となっており、県全体の農業産出額の25%を占めています。
- 産出額が全国上位の品目としては、らっきょう（全国1位）、すいか（全国4位）、ブロッコリー（全国9位）、ねぎ（全国15位）があります。
- 鳥取県では、らっきょうは「鳥取砂丘らっきょう」「ふくべ砂丘らっきょう」、すいかは「大栄西瓜」^{だいえいすいか}「極実すいか」^{ごくみ}「とまり美人」「がぶりこ」、ブロッコリーは「大山ブロッコリー」^{おほやま}「きらきらみどり」、ねぎは「伯州美人」^{はくしゅうびじん}、ながいもは「ねばりっこ」「砂丘ながいも」、トマトは「日南トマト」^{にちなん}「大原トマト」^{おはら}など特色あるブランドとして販売しています。

らっきょう

県東部・中部の砂丘地帯で栽培されており、特に鳥取砂丘に隣接する鳥取市福部町は全国有数の産地として知られています。きめ細かな砂地で育てられたらっきょうは、白く美しい外観とシャキシャキとした歯ごたえが特徴で全国的に高い評価を得ています。

主な産地：鳥取市福部町、北栄町ほか



ねぎ

白ねぎ生産は米子市を中心とする弓ヶ浜半島の砂地地帯から始まり、現在では県下全域に広がっています。作付時期の分散や品種の組み合わせにより周年出荷体制が確立されています。

主な産地：米子市、境港市ほか



すいか

県中部・西部の大山山麓に広がる黒ぼく地帯を中心に栽培されています。豊かな土地で育てられたすいかは大玉で果汁が多く、シャリ感のある食感と高い糖度が特徴で、市場からも高い評価を得ています。

主な産地：北栄町、琴浦町、倉吉市ほか



ながいも

県中部の砂丘地帯で栽培される「砂丘ながいも」は、サクサクとした食感が特徴です。また、鳥取県園芸試験場が開発した「ねばりっこ」は、「砂丘ながいも」に比べて粘りが強く、肉質が緻密で豊かな食味を有しています。

主な産地：北栄町ほか



ブロッコリー

主に県中部・西部の黒ぼく地帯で栽培されており、秋冬から初夏にかけて長期間出荷されています。鮮度の高さと、輸入品と区別するため、葉を付けたまま出荷されているのが特徴です。

主な産地：大山町ほか



トマト

冷涼な気候を活かし、日南町や倉吉市大原地区で大玉トマト栽培が行われています。また、琴浦町ではミニトマトの生産も盛んで、加工品作りにも利用されています。

主な産地：【大玉トマト】日南町、倉吉市ほか
【ミニトマト】琴浦町、北栄町ほか



果樹

- 令和6年の鳥取県の果実の産出額は71億円で全国32位となっています。結果樹面積は、日本なし526ha、かき212ha、ぶどう66haです。
- 日本なしは、産出額が全国3位（収穫量は全国5位）で、「二十世紀梨」を中心に、県オリジナル品種の「なつひめ」や「新甘泉」等、多様な品種が栽培されています。
- かきは、渋抜きにより上品な甘さが楽しめる「西条柿」や、鳥取県原産で「日本一甘い柿」とも称される「花御所柿」など、歴史と品質を兼ね備えた品種が栽培されています。

日本なし

鳥取県を代表する果実の一つが日本なしです。特に「二十世紀梨」は、明治37年（1904年）に千葉県から導入されて以来、100年以上にわたり栽培されている鳥取県の代表品種です。また、「二十世紀梨」を親品種としたオリジナル品種の育成も進められており、「なつひめ」などの青梨や、「新甘泉」などの赤梨が栽培されています。



二十世紀梨



なつひめ



新甘泉

ぶどう

県中部を流れる天神川下流域に広がる砂丘地帯は水はけが良く、昼夜の寒暖差が大きいので、ぶどう栽培に適しています。この地域では「ピオーネ」「デラウェア」「巨峰」「シャインマスカット」などが栽培されており県内最大のぶどう産地となっています。地域のブドウを活用したワインづくりも行われています。



ピオーネ

かき

鳥取県で栽培されているかきは、「富有」と「西条」が中心に生産されています。鳥取県原産の「花御所柿」は高い人気を誇り、八頭町郡家地区を中心に特産化が進められています。さらに、平成22年には鳥取県オリジナル品種「輝太郎」が品種登録され、その生産拡大と普及が進められています。



西条柿



花御所柿



きたろう
輝太郎

鳥取県の主要な果樹の収穫量と全国シェア・順位

果樹名		収穫量(t)	全国シェア(%)	全国順位
日本なし	R6	10,300	6.6	6位
かき	R6	1,360	0.9	20位
ぶどう	R6	487	0.3	23位

出典：農林水産省「作況調査（果樹）」

地理的表示（GI : Geographical Indication）保護制度

- 地理的表示（GI）保護制度は、その地域特有の自然的、人文的、社会的な要因・環境のもとで育まれてきた品質や社会的評価等の特性を有する産品の名称を、地域の知的財産として保護する制度です。
- この制度は、地域に根差した産品の品質や製法、評判、歴史・文化といった魅力や強みを「見える化」し、国による登録やGIマークの活用を通じて、効果的なPRや取引先への説明、消費者・需要者の信頼獲得に役立つツールとなっています。
- 令和8年3月時点で、全国では167産品、鳥取県内では5産品がGI登録されています。

鳥取砂丘らっきょう ふくべ砂丘らっきょう

生産地：鳥取市福部町内の
鳥取砂丘に隣接した砂丘畑
登録団体：鳥取いなば農業協同組合



大山ブロッコリー

生産地：大山町、日吉津村、南部町、
伯耆町、日南町、日野町、
江府町、米子市
登録団体：鳥取西部農業協同組合



はなごしょうがき こおげ花御所柿

生産地：八頭町
登録団体：鳥取いなば農業協同組合



日本の地理的表示法に基づいて登録された産品には、地理的表示と併せてGIマークを表示することができます。



だいえいすいか 大栄西瓜

生産地：北栄町・琴浦町、倉吉市
登録団体：鳥取中央農業協同組合



はくしゅうびじん 伯州美人

生産地：米子市、境港市及び
その周辺の大江山麓
登録団体：鳥取西部農業協同組合



◆地理的表示産品情報発信サイト（日本地理的表示協議会）：

<https://pd.jgic.jp/>

◆地理的表示(GI)保護制度（農林水産省HP）：

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/index.html

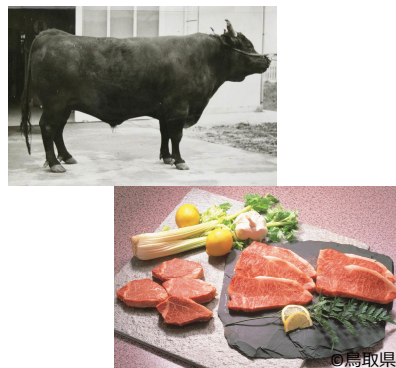
畜産

- 令和6年の鳥取県の畜産産出額は328億円で全国29位となっており、県全体の農業産出額の38%を占めています。
- 品目別の産出額順位は、ブロイラー（全国7位）、生乳（全国19位）、肉用牛（全国29位）、豚（全国29位）、鶏卵（全国44位）となっています。ブロイラーは複数の大規模生産体が、生乳は大山乳業農業協同組合が生産・流通中心的な役割を担っています。
- 鳥取県独自のブランドとして、肉用豚の「大山ルビー（R B）」や、肉用鶏の「鳥取地どりピヨ」が商標登録されています。

鳥取和牛

鳥取県は黒毛和牛の産地として知られています。県内で肥育され、肉質等級が3等級以上の黒毛和種を「鳥取和牛」として販売しています。

また、鳥取和牛のうち、オレイン酸含有量55%以上のものは、「鳥取和牛オレイン55」としてブランド化されており、くちどけの良さや豊かな風味が特徴です。



大山ルビー（R B）

県独自のブランド豚で、旨み成分の一つであるオレイン酸を豊富に含む「大山赤ぶた」と、肉質の良さや、柔らかさに優れた黒豚の双方の特徴を受け継いでいます。食味試験においても、赤みと脂肪のいずれも高評価を得ています。



牛乳・乳製品

県内で生産された生乳は、生産・処理・販売を一貫して行う大山乳業農業協同組合に集荷されています。同組合では「白バラ牛乳」やヨーグルト、アイスクリーム、スイーツなどの乳製品を製造・販売しています。



肉用鶏

ブロイラーの全国有数の生産県であり、飼養羽数は近年増加傾向にあります。

また、「鳥取地どりピヨ」は鳥取県独自のブランド地鶏で、品種や飼育方法など一定の基準を満たしたもののだけがその名称を使用できます。適度な歯ごたえ、豊かなコクが特徴で、ブロイラーとは異なる地鶏ならではの味わいが楽しめます。

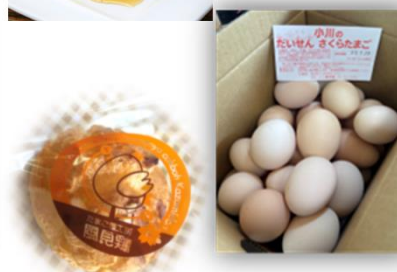


鶏卵（加工・販売）

県内では、飼育方法や餌料にこだわった鶏卵生産とあわせて、卵を活用した加工・販売まで行う6次産業化の取組が進められています。

大江ノ郷自然牧場は平飼いで生産した「天美卵」を使用したスイーツの販売や、自社レストランで卵料理の提供を行っています。

また、小川養鶏場では「さくらたまご」を使用したスイーツを自社の専門店で販売しています。



林業

○ 令和6年の鳥取県の林業産出額は33億円で全国33位となっており、内訳は木材生産が20億円、栽培きのこ類生産が12億円、薪炭生産が1億円です。

けいちょうすぎ

○ 木材生産では、県東部の「慶長杉」に代表される杉が主要な樹種であり、産出額が全国25位となっています。杉は県内の木材産出額の43%を占めています。

○ 栽培きのこ類等の主な品目として、乾きくらげ、エリンギ、竹炭などが生産されています。

慶長杉（智頭町）

四季を通じて寒暖差の大きい気候風土と、長年にわたり受け継がれてきた育林技術により育まれた「智頭杉」のうち、樹齢約400年以上のものは「慶長杉」と呼ばれています。これらの杉林が織りなす造林景観は、わが国を代表する林業景観として全国的に知られています。



©鳥取県

竹炭

琴浦町の大山竹炭工房では、竹炭を活用した調湿剤や・消臭剤を生産販売しています。また、竹炭窯から放出される遠赤外線を利用し、窯の上に横たわることで温浴効果を体験できる「温浴窯」の販売も行っています。



アラゲキクラゲ

日本きのこセンターでは、食品メーカーからの相談を契機として、ビタミンDや食物繊維を豊富に含むアラゲキクラゲの栽培研究に取り組んできました。現在ではアラゲキクラゲの生産が進み雇用創出や地域活性化にも貢献しています。



エリンギ

八頭町の北村きのこ園では、国産杉のおがくずを約2年間堆積・熟成させ、不純物を取り除いたのち、ふすまや米ぬかを混ぜたものを培地使用して栽培を行っています。農薬や化学肥料を使用しない希少な栽培方法により、高品質なきのこを生産しています。



鳥取県きのこ産業ビジョン

生産者、関係団体、行政が構成する「鳥取県原木しいたけブランド化促進協議会」では、「きのこ王国とっとり」の再興を目指し、令和6年3月に「鳥取県きのこ産業ビジョン」を改訂しました。

一般社団法人 日本きのこセンター

鳥取県に所在する、国内唯一のきのこ専門の民間学術研究機関です。きのこ類に関する調査研究をはじめ、栽培技術の開発や普及を通じて、地域振興や産業発展に取り組んでいます。

とっとりたけおう

鳥取茸王

日本きのこセンターが開発した「菌興115号」の種菌を使用した原木栽培されたしいたけは、総称して「とっとり115」と呼ばれています。このうち、傘の大きさや厚さなど、厳しい基準を満たした生しいたけは「鳥取茸王」としてブランド化されています。



漁業

- 令和6年の鳥取県の漁業産出額は218億円で全国19位、漁獲量は89,922 tと全国7位となっています。
- 鳥取県には全国有数の水揚げ量を誇る境港があり、品目別の産出額順位は、ずわいがに（全国3位）、ベにずわいがに（全国2位）、まいわし（全国6位）、はたはた（全国1位）となっています。
- 鳥取県ではずわいがにを「松葉がに」、特に優れたものを「五輝星」としてブランド化しているほか、岩がきは「夏輝」、さけの「活メ境港サーモン」、「クラウンサーモン」、さばの「お嬢サバ」、「さばみちゃん」など多彩な水産ブランドを展開しています。

ずわいがに

山陰地方で水揚げされるずわいがには、成長した雄を「松葉がに」、雌を「親がに」と呼びます。「松葉がに」は身がぎっしりと詰まり、上品な甘みが特徴です。

一方、「親がに」は雄に比べて小ぶりですが、内子や外子を有し、かに汁などで親しまれています。

また、資源管理のため、漁期は11月～翌年3月に限られています。



ベにずわいがに

ベにずわいがには、主に境港で水揚げされており、鮮やかな赤色と上品な甘みが特徴です。加工適性が高いことから、境港周辺には多くの加工施設が集積しており、棒肉や爪肉、かにみそなどのかに製品をはじめ、様々な冷凍食品に加工されています。かに殻はキッチンやキトサンの原料として有効活用されています。

また、資源管理のため漁期は9月から翌年6月までとされています。



はたはた

鳥取県のはたはたは9月から翌年5月にかけて漁獲されます。朝鮮半島周辺で生まれ、山陰沖を回遊するため、産卵前の卵を持たない時期に漁獲されることから、脂ののりが良いのが特徴です。

また、全長20cm以上の大型のはたはたは、鳥取県オリジナルブランド「とろはた」として販売されており、とろけるような食感と濃厚な旨みが高評価されています。



岩がき

鳥取県内で水揚げされた岩がきのうち、殻長13cm以上などの基準を満たした高品質なものは「夏輝」として認定され、専用のブランドラベルを付けて販売されます。濃厚な旨みとクリーミーな味わいが特徴です。

また、漁期は6月から8月までです。



さけ

鳥取県では豊かな水資源を活かし、海面養殖と陸上養殖の両方によるサーモン養殖が行われています。

海面養殖では境港市の「活メ境港サーモン」、陸上養殖では倉吉市の「クラウンサーモン」、琴浦町の「とっとり琴浦グランサーモン」、米子市の「皆生サーモン」など、それぞれの地域特性を生かしたブランド化が進められています。



輸出

- 鳥取県から輸出品される、主な農林水産物・食品には、菓子などの加工食品、和牛、日本なし、日本酒、乳製品などがあります。
- 農林水産省では、農林水産物・食品の輸出に取り組む事業者を支援するため、平成30年に「GFP（農林水産物・食品輸出プロジェクト）」を開始しました。輸出診断や事業者間のマッチングなど、輸出拡大に向けた様々な支援を行っています。
鳥取県内のGFP登録事業者数は、令和8年5月末現在で、69事業者（中国四国地域全体では959事業者）が登録されています。



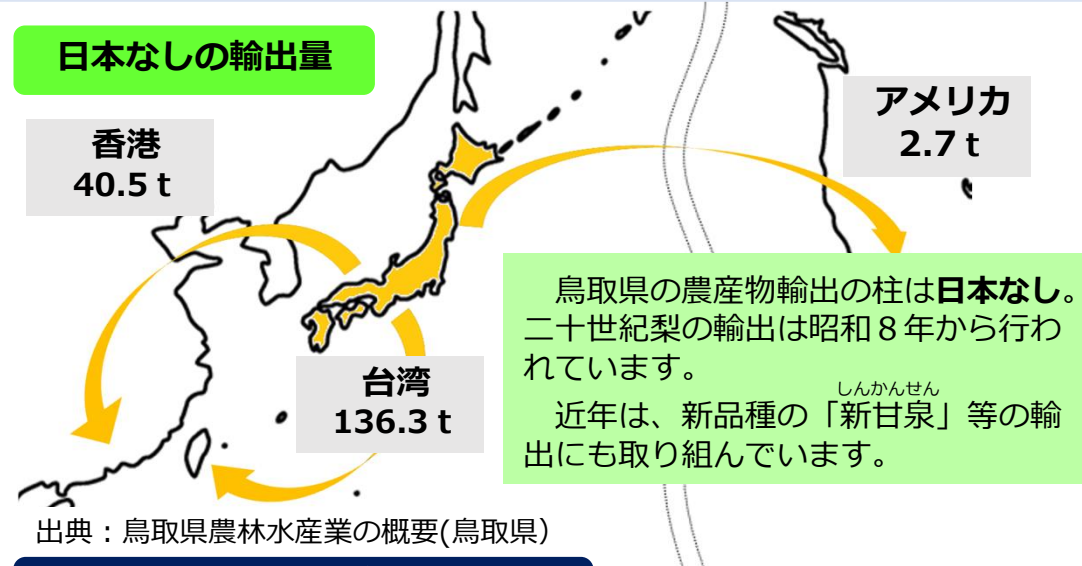
鳥取県の主な農産物・食品の輸出品目と輸出先（令和6年度）

品目名	輸出先	(百万円) 輸出額	輸出量
加工食品 (菓子等)	米国、中国、韓国等	682	—
日本酒	米国、ロシア、中国等	148	—
日本なし	主に台湾、香港、米国	150	182 t
和牛	台湾、香港、米国等	166	26 t
乳製品	香港、韓国、マカオ等	53	—
すいか	香港	10	31 t
かき	主にタイ	4	8 t

出典：中国四国農政局「中国四国地域の輸出マップ」

注：本データは、県及び「A」等の協力により把握した主な農林水産物・食品の輸出額・輸出量であり、各県の状況を網羅したものではない。

日本なしの輸出量



フラッグシップ輸出産地

農林水産省では、海外の規制やニーズに対応しながら継続的に輸出に取り組み、他の産地のモデルとなる優れた産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定しています。

令和6年12月には、牛乳や乳製品の製造・販売を行う大山乳業農業協同組合が、鳥取県内で初めてフラッグシップ輸出産地に認定されました。



農泊

- 農林水産省では、農山漁村に宿泊し、地域資源を活用した食事や農林漁業体験などを楽しむ「農泊（農山漁村滞在型旅行）」を推進しています。農泊を通じて、農山漁村の魅力を観光コンテンツとして活用し、インバウンドを含む国内外からの誘客を図ることで、地域の所得向上や関係人口創出につなげています。
- 鳥取県内には、農林水産省の農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の採択を受けている地域が8か所あります。

鳥取県内の農山漁村振興交付金（農泊推進対策）採択地域

①五しの里さじ地域協議会（鳥取市）

②一般社団法人麒麟のまち観光局（鳥取市外6町）

③倉吉市体験型教育旅行誘致協議会（倉吉市）

④岩美渚伯推進協議会（岩美町）

⑤ふなおか共生の里づくり推進協議会（八頭町）

⑥若桜谷活性化協議会（八頭町）

⑦南部町農泊推進協議会（南部町）

⑧一般社団法人日南町観光協会（日南町）



立ち寄るのみだと...

滞在時間：短 → 「通過型観光」



利益は限定・局所的

宿泊・体験コンテンツが充実すると...

滞在時間：長 → 「滞在型観光」



地域の利益の最大化

農泊を支える受入体制の整備を通じて、地域の雇用創出にもつながっています。

多様な交流がリピーターの獲得につながり、移住・定住のきっかけを生み出します。

◆ 「農泊」の推進について（農林水産省HP）：https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakusuishin/nouhaku_top.html

つなぐ棚田遺産

- 棚田は「日本のピラミッド」とも称されるほど、伝統・文化の継承や美しい景観の形成、教育の場の提供、国土保全などの多面的機能を有しており、農業生産活動を基盤としながら、地域住民等の共同活動によって守られている国民共通の財産です。
- 農林水産省では、棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価することで、棚田地域の活性化及び棚田が有する多面的な機能への理解と協力を一層促進することを目的として、令和3年度に「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」を認定しました。その結果、全国271地区が認定され、鳥取県内では3地区が認定されています。

鳥取県内のつなぐ棚田遺産認定地区

① ^{きょうがはら}京ヶ原棚田（鳥取市国府町上地）



未来へ残す天空の棚田

棚田を管理する地元農家の減少が進む中、鳥取大学や地元企業等からボランティアを募り、官民一体となって棚田景観を次世代へ継承するための保全活動に取り組んでいます。

② ^{よこお}横尾棚田（岩美町大字洗井）



農村交流の場 「いがみ田」を後世に！

棚田オーナーや学生ボランティアと連携し、田植えや稲刈り、水路の維持管理に取り組むことで、別名「いがみ田」と呼ばれる美しい棚田景観の保全と継承に努めています。



棚田とは

山の斜面や谷間などの傾斜地に階段状に築かれた水田を「棚田」といいます。

一方、同様に階段状に造成された畑は「段々畑」と呼ばれています。



③ ^{よね}つく米棚田（若桜町大字つく米字野）



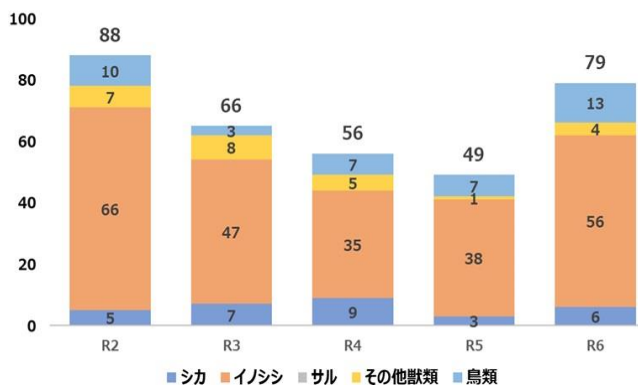
標高800mの大自然に 拓かれた棚田

県と連携して農山村ボランティアを受け入れるなど、ボランティアの協力による棚田の保全活動に取り組んでいます。

鳥獣対策・ジビエ推進の取組

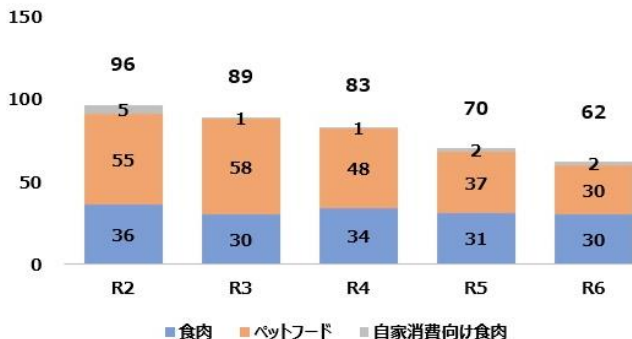
- 農林水産省では、鳥獣被害防止対策を推進するとともに、捕獲した野生鳥獣を地域資源として有効活用する「ジビエ利用」を推進しています。令和6年度の鳥取県内における野生鳥獣による農作物被害額は約7,900万円で、このうちイノシシによる被害額が5,600万円と、全体の71%を占めています。
- 鳥取県では、「食パラダイス鳥取県」をテーマに、豊かな食を活かした地域づくりを推進しています。イノシシやシカなどによる農林業被害が深刻化する中、これらを地域資源として活用する「とっとりジビエ」の普及に取り組んでおり、飲食店をはじめ、バーベキューなどのアウトドア、高たんぱくで低脂肪な鹿肉をスポーツ選手へ提供するなど様々な分野で利用拡大を進めています。令和6年度の鳥取県内ジビエ利用量は約62 tで、全国10位となっています。

(百万円) 鳥取県の鳥獣による農作物被害額の推移



出典：農林水産省「野生鳥獣による農作物被害状況」

(t) 鳥取県内のジビエ利用量の推移



出典：農林水産省「野生鳥獣資源利用実態調査」

鳥取県内の取組紹介

わかさ29工房（若桜町）ジビエ認証施設 第7号



鳥取県HACCP適合施設の認定を取得し、高度な品質・衛生管理のもとジビエの処理・加工を行うとともに、全国的な先進モデルとして県内外の施設を牽引しています。

★令和4年度

鳥獣対策優良活動表彰 農村振興局長賞受賞！

国産ジビエ認証制度とは



より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、衛生管理及び流通規格の遵守、適切なラベル表示によるトレーサビリティの確保等に取り組む食肉処理施設の認証を行う制度。

日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊

日野郡3町が共同設立した協議会のもと、集落講習会の開催や侵入防止柵の普及、集落ぐるみの対策体制づくりを推進。「捕獲」依存から「農作物を守る」視点へと住民意識の啓発を図り、農作物の被害額・被害面積の減少につなげています。

★令和5年度

鳥獣対策優良活動表彰農村振興局長賞受賞！



鳥取県庁食堂（鳥取市）

鳥取県庁食堂では、ジビエの地産地消推進のため2007年からジビエカレーを提供。第1・3・5火曜は「鹿野町の猪カレー」、第2・4火曜は「若桜町の鹿カレー」を提供しています。



詳しくは農林水産省WEBマガジン aff 2024年12月号行ってみたい！「社員食堂」鳥取県庁食堂

<https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2412/canteen04.html>

◆ 鳥獣害対策の広場（中国四国農政局HP）：<https://www.maff.go.jp/chushi/chojyuu/index.html>

◆ ジビエの利活用について（中国四国農政局HP）：<https://www.maff.go.jp/chushi/chojyuu/jibie.html>

ディスカバー農山漁村の宝・多面的機能発揮促進事業

- 農林水産省では、各種事業における優良な取組を選定・表彰しており、本資料では鳥取県内で受賞した主な事例を紹介します。
- 「ディスカバー農山漁村の宝」は、平成26年から毎年実施されている表彰制度であり、令和7年度で第12回選定となります。鳥取県内では、第4回、第9回、第11回及び第12回において、優良事例として全国選定されています。
- 「多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰」では、鳥取県内で多面的機能支払に取り組む活動組織が、令和4年度から令和7年度まで4年連続で最優秀賞を受賞しています。

ディスカバー農山漁村の宝



「強い農林水産業」及び「美しく活力ある農山漁村」の実現を目指し、農山漁村の有するポテンシャルを活用して地域の活性化や所得向上に取り組む優良事例を選定・発信することで、その取組の全国的な横展開を図るものです。

●県内の全国選定地区

第12回 (令和7年)	だいせんにゆうぎょうきょうどうくみあい 大山乳業協同組合 (琴浦町)	 バイオ炭利用の堆肥を施用
第12回 (令和7年)	したまちみどりかい 下町水土里会 (八頭町)	 コウノトリが集まる田んぼ
第11回 (令和6年)	いでかみのうち みずほぜんかつどうそしき 出上農地・水保全活動組織 (琴浦町)	 軽トラ水族館

◆ディスカバー農山漁村の宝（農林水産省HP）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

多面的機能発揮促進事業 中国四国農政局長表彰



中国四国農政局では、水路や農道等の地域資源の保全管理を通じて農業・農村が有する多面的機能の発揮を促進する本事業の推進と、優良事例の横展開を図ることを目的に、優れた取組を行う活動組織を表彰しています。

●最優秀賞受賞組織

令和7年度	しおうじちくしげんほぜんかい 四王寺地区資源保全会 (倉吉市)	 食農体験学習
令和6年度	したまちみどりかい 下町水土里会 (八頭町)	 ため池の清掃
令和5年度	えげばらくちいきしげん かんきょうほぜん 会下部落地域資源・ 環境保全プロジェクト (鳥取市)	 景観形成活動

◆多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰（中国四国農政局HP）
<https://www.maff.go.jp/chushi/chusankan/nihongata.html>

**農林水産省
中国四国農政局**

鳥取県拠点

〒680-0845 鳥取市富安2丁目89番地4

鳥取第1地方合同庁舎

電話：0857-22-3131（代表）

令和8年7月作成